

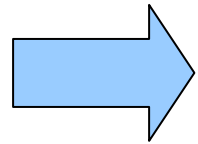
米印原子力合意の戦略性分析： 米国内の議論を中心に

平成18年6月23日

財)日本国際問題研究所
軍縮・不拡散促進センター
秋山 信将

米印合意の意義を分析する視角

- 政策のインプリケーション
 - 不拡散・軍縮
 - エネルギー安全保障・環境
 - 国際戦略環境
 - ビジネス・チャンス



損か得か？

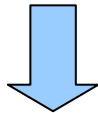
各要因ごとの損得勘定

ネット・ゲイン or ネット・ロス？

インプリケーション：不拡散・軍縮（１）

- 正の効果

- 民生用原子炉を保障措置下に
保障措置の普遍化に貢献
- 核実験モラトリアム
- FMCT交渉への参加
核軍縮へのステップ
- MTCR、NSGの遵守
機微な資機材の拡散の防止 など



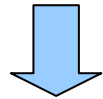
問題は、インドがこれらを認め遵守するか？

Responsible Stakeholder的行動は可能か？

インプリケーション：不拡散・軍縮（２）

● 問題点

- 軍事用施設は依然として保障措置外
- 民生部門における協力の提供
- NSGの例外規定

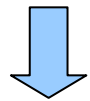


- 軍事部門へのリソースの振り向けが可能に
- モラル・ハザード（NPT等、条約・取極の遵守のインセンティブ低下、「例外」の多発）
- NSG等不拡散政策制度の実効性の低下
- インドの政策実行能力（カーンネットワーク関与の疑い、不拡散法の執行体制の欠如など）
- 他のイシュー（イラン、北朝鮮問題）への負の波及効果

インプリケーション: エネルギー安全保障

- **エネルギー需要と環境**

- インド経済にとっての必要性
- 米国のエネルギー安全保障にとっての必要性
= 石油獲得競争の緩和 = 世界的エネルギー危機の回避
- 環境面での貢献
- 原子力安全への関与の拡大



- どの程度のスケールで石油需要緩和に貢献するのか
- 原子力以外の技術協力(石炭の液化技術など)の貢献の可能性

インプリケーション：国際戦略環境

- 戦略パートナーとしてのインド
 - 南アジア・西アジアの安定の要
 - 中国の台頭への対抗
 - インドの核ドクトリンへの関与
- ↓
- インドのプラグマティズム
 - 中国との関係
 - 中印(あるいは露も含む「ユーラシア」)関係
 - 中印軍拡競争
 - パキスタンとの関係
 - パキスタンの軍拡(中国との協力?)
 - 対米協力からの離反?

インプリケーション: ビジネス

- 米国のビジネス機会の拡大

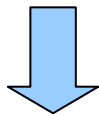
- 原子力産業
- エネルギー産業
- 軍需産業



- 米国の原子力産業の競争力は？ (対仏、対露)

米印合意実施までに必要な手続き

- 米国国内の手続き
 - 関係法の改正
 - 原子力協力協定への議会の同意
- 国際的手続き
 - インド・IAEA間の保障措置協定
 - NSGルールの改定



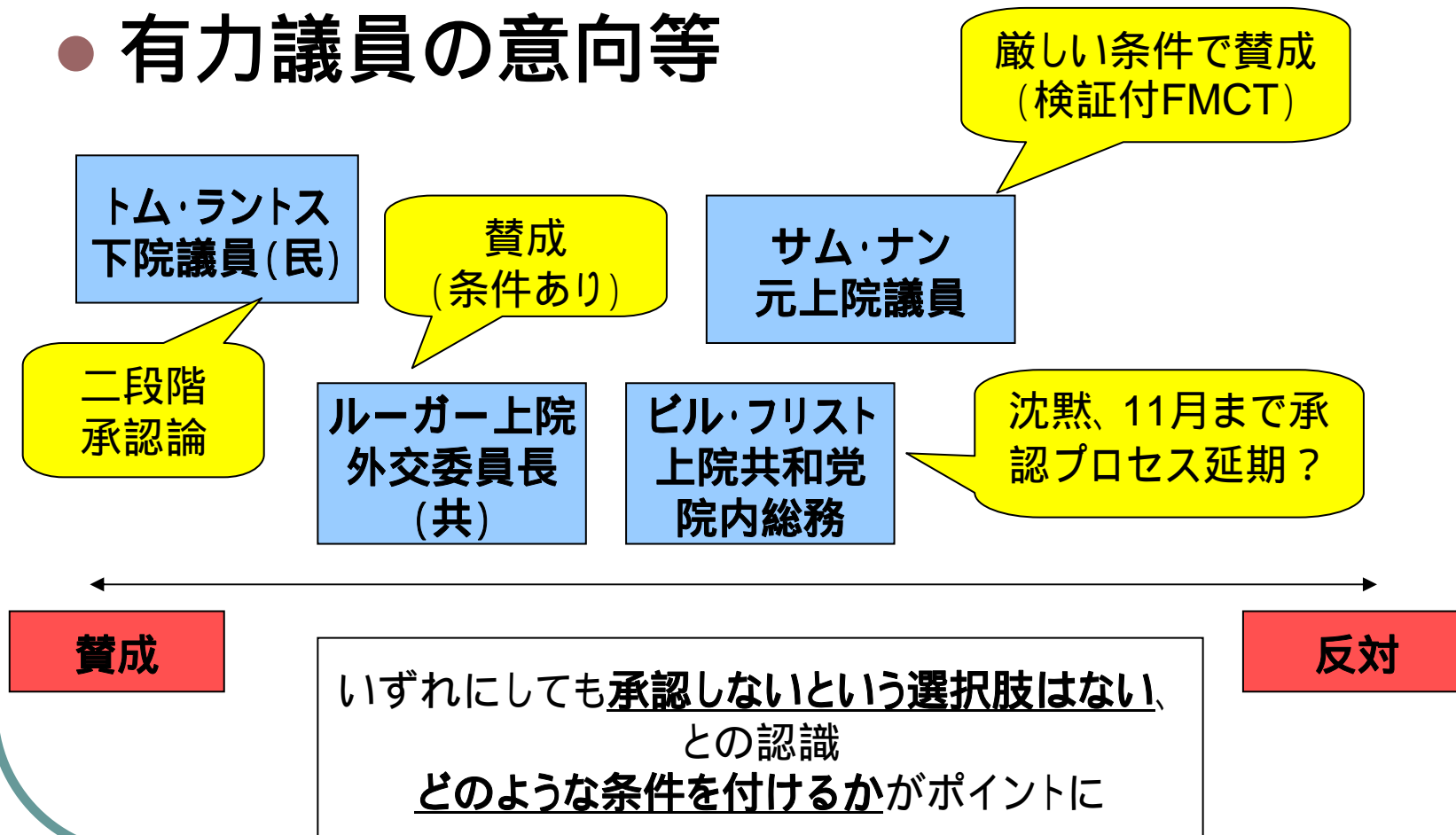
どのような手順でこれらを行うのか

米国議会の動向(1)

- 米印合意承認プロセスの問題点
 - 合意案の議会への提示拒否
 - 二段階承認(原則と協定文書)が一括か
 - 米国の外交戦略にとっての利益
- 対印原子力協力のための法改正
 - 原子力法Sec.123、Sec.129
 - 核拡散防止法
 - 武器輸出管理法・外国援助法(シメント修正条項、グレン修正条項)

米国議会の動向(2)

● 有力議員の意向等



米国議会の動向(3)

- 今後の行方

- 合意を承認しないという選択肢はない

- すでに「所与」の存在となり、不承認は米印関係の大きな「後退」となる

- 鍵は、 国際的同意の取り付け、 承認の条件、 タイミング

北欧、南米等の態度、国際燃料供給構想とのリンケージ
FMCT交渉入り、核実験モラトリアム、輸出管理の厳格化
承認の遅れ インド側の不信 = 合意の崩壊の恐れ
二段階承認(総論的支持と個別法案)戦略の採用

我が国へのインプリケーション(1)

- 我が国にとっての対インド協力の重要性
 - 軍縮・不拡散
 - インドの不拡散・軍縮へのエンゲージメント強化
 - 安全保障・国際戦略環境
 - 「民主主義同盟」
 - 対中、対口、対ユーラシアの戦略的配慮
 - エネルギー・環境
 - アジアにおけるエネルギー需給の緩和
 - 地球温暖化問題解決への貢献
 - ビジネス
 - 我が国の原子力産業の市場拡大、人材維持

我が国へのインプリケーション(2)

● 懸案事項

● 軍縮・不拡散

- 日本の軍縮・不拡散外交の信頼性との両立
(日本核武装論台頭への配慮が必要)
- インドは「責任ある『核不拡散貢献国』」になれるのか？

● 安全保障・国際戦略環境

- 対アジア、対ユーラシア戦略の全体像の中でのバランス
- インドの「ヘッジ」戦略にどう付き合うか

● エネルギー・環境

- 原子力分野の協力のみでエネルギー需給改善は不十分
- 原子力安全への協力が不可欠(日本の比較優位分野？)

● ビジネス

- 競争力
- 米国産業との協力

我が国としての対処の方向性(1)

- 米印合意を「活用」する
 - 多角的側面からトータルな評価の必要性
 - 多面性と時間軸(短期・長期的影響)の考慮
 - 戦略分析からのオプティミズムの排除
 - 現状のままでは「ネット・ロス」の状態
 - しかし、承認は不可避、覆すのは「より悪い」選択
 - いかにも不拡散・軍縮の促進に資する条件を付けるか
 - 多国間取極やレジームの機能不全を回避できるか？(回避不可 規範の不在 外交コストの著しい上昇の恐れ)
 - 日印関係のトータルな緊密化の戦略的要請とのバランス

我が国としての対処の方向性(2)

- 対処のポイント
 - 外交的レバレッジ(NSG等)の活用
 - 適切なツール、適切な手順の選択(原子力安全、保障措置等における協力から開始)
 - 原子力分野も含む、具体的な協力プログラムを含む包括的な戦略的パートナーシップの構築を通じた日印関係の強化
 - = ヘッジング(= 原子力イシューの絶対化の回避)効果も期待